

めぐみイエス・キリスト教会

2021年12月19日(日)第三主日クリスマス礼拝
週報「通算第588号」



2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌80「あめなる神には」	p. 110
【交読文】	No.14詩篇第37篇	p. 889
【賛美Ⅱ】	新聖歌77「きよしこのよる」	p. 105
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲No.20「天より来られし」	
【聖書朗読】	ルカの福音書2章8節～20節 (p. 110)	
【礼拝説教】	《救い主の生まれた意味とは？》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

●ポイント1. 「メシア誕生の預言」とは？

※ミカ書5章2節「ベツレヘム・エフラテ」 (旧約p.1586)

5:2「ベツレヘム・エフラテよ、あなたはユダの氏族の中で、あまりにも小さい。だが、あなたから私のためにイスラエルを治める者が出る。その出現は昔から、永遠の昔から定まっている。」

●ポイント2. 「主イエスが来られた理由その①」とは？

※ヘブル人への手紙9章22節～28節「新改訳旧第二版から」

9:22 それで、律法によれば、すべてのものは血によってきよめられる、と言ってよいでしょう。また、血を注ぎ出すことがなければ、罪の赦

しはないのです。

9:23 ですから、天にあるものにかたどったものは、これらのものによってきよめられる必要がありました。しかし天にあるもの自体は、これよりもさらにすぐれたいけにえで、きよめられなければなりません。

9:24 キリストは、本物の模型にすぎない、手で造った聖所にはいられたのではなく、天そのものにはいられたのです。そして、今、私たちのために神の御前に現われてくださるのです。

9:25 それも、年ごとに自分の血でない血を携えて聖所にはいる大祭司とは違って、キリストは、ご自分を幾度もささげることはなさいません。

9:26 もしそうでなかったら、世の初めから幾度も苦難を受けなければならなかったでしょう。しかしキリストは、ただ一度、今の世の終わりに、ご自身をいけにえとして罪を取り除くために、来られたのです。

9:27 そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、

9:28 キリストも、多くの人々の罪を負うために一度、ご自身をささげられました。二度目は、罪を負うため

ではなく、彼を待ち望んでいる人々の救いのために来られるのです。

●ポイント3. 「主イエスが来られた理由その②」とは？

※イザヤ書53章3節「悲しみのメシヤ預言から」 (旧約p.1259)

53:3 彼は蔑まれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で、病を知っていた。人が顔を背けるほど蔑まれ、私たちも彼を尊ばなかった。

※ヘブル人への手紙4章15節「私たちと同じように」 (新約p.441)

4:15 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯しませんでした。すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです。

◎先週の礼拝メッセージの概要【受胎告知】

《マリアの婚約者はダビデの子孫であるヨセフです。そしてマリアもダビデの子孫なのです。ルカはマリアの系図を掲載しています。しかもダビデとウリヤの妻バテシェバとの子どもから、ヨセフとマリアの系図は別れることとなります。イザヤ書には、メシア誕生の預言が二つ掲載されています。『それ故、主は自ら、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産み、その名をインマヌエルと呼ぶ。』『エッサイの根株から新芽が生え、その根から若枝が出て実を結ぶ。その上に主の霊が留まる。その日になると、エッサイの根は諸々の民の旗として立ち、国々は彼を求め、彼の留まる所は栄光に輝く。』この二つの預言から、ダビデの直系の子孫である乙女たちは、自分こそがメシアを宿すかも知れないと期待して育ったのです。御使いは告げ知らせます。「マリア。あなたは神から恵みを受けたのです。見なさい。あなたは身ごもって、男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。」と。

実はこの名前はユダヤではありふれた名前でした。出所はモーセです。モーセはヌンの子ホセアをヨシュアと名づけたのです。ヨシュアをギリシャ語読みしますとイエスとなります。当時イエスと言う名の男性は数多くいました。それ故、主は「ナザレのイエス」と呼ばれることになるのです。「どうしてその様な事が起こるのでしょうか。私は男の人を知りませんのに。」

なぜ、マリアが選ばれたのでしょうか。それには、マリアの従姉妹エリサベツの存在が非常に大きいかと思われるのです。それ故に、ルカはバプテスマのヨハネ誕生の記事を、福音書に真っ先に書き記したのです。

ルカは、二つの奇跡を描いています。老女懐妊とマリアの処女懐妊です。御使いガブリエルは言います。「神に不可能なことはありません。」と。「ご覧下さい。私は主のはしためです。どうぞ、あなたのお言葉どおり、この身になりますように。」この言葉に、マリアの信仰と、そして堅い決意が感じられます。マリアは、すでに覚悟が出来ていたのです。》

◎お知らせ

※第四主日礼拝は、12月26日(日)午前10時半から行ないます。

※2022年1月2日(日)の礼拝はお休みします。1月9日(日)からです。